

用語 No.	頁 P. 行No.	コメント内容(各250字以内)	提 案(各250字以内)	対 応
1	6	2.3の1行目「影響を与えうる」、「影響を受け得る」と表記が混在している。どちらかに統一したほうがよい。	全体的に用字・用語の統一が図られていないので、統一を図ったほうがよい。今回のコメントの多くは用字用語の統一についてのものです。	○
2	3.2 7-8	感性品質 記載内容が不十分ではありませんか？ (スタイルが良い, 高級感を感じる, 座り心地が良いなども感性品質だが記載内容では説明し難いのは？)	…人間の五感などを用いて感じるができるものの良さの程度(感じたことを総合的に判断した結果を含む), …	× 「感じたことを総合的に判断した結果」という表現はわかりにくいので省略します。
3	3.3 7-11	使用性 「労力」だけでは記載内容が不十分ではありませんか？	「労力」⇒「負担」又は「負荷」	× 「労力」とは「何かを進めるために新進を働かせること」という意味であるので、より広くとらえられると解釈しました。一方、負担・負荷では、マイナス面だけを意味してしまうので避けました。
4	3.12 8-12	当り前品質 「当り前」を使用しないで説明した方がよい。 (当該の用語に含まれている言葉をそのまま説明に使用しないという方針に反する)	案①「充足されていても当然と受け取られるが…」 案②「充足されていても普通であると受け取られるが…」	× 原著者の表現を尊重します。
5	8	4.2の1行目、「複数のプロセスが」は「複数のプロセスにおいて」に変えたほうがよい。 4.2の末尾の()内は(JIS Q 9026:2016)と変える。		△ 「複数のプロセスが」を、「ねらいとする価値を…」の前に移動させます。 ○
6	9	4.5の2行目、「取決め」は「取り決め」に変える。 4.5の(1)と(2)の左右の位置をそろえる。		○ ○
7	6.6 11-6	「暫定処置」も使用することがある。	6.6 応急対策／応急処置／暫定処置	× 暫定処置はその後に更に処置を期待しており別の意味だと解釈しました。
8	12	6.12の1行目、「持っている」を「もっている」に変え、表記を合わせる。 6.15の3行目「, 分析」の後に4行目「(Analyze)…頭文字である。」を改行せずにつなげ、他の表記に合わせる。	「持つ」は「もつ」に統一。	○ ○
9	7.2 13行 2行	原案:ある物事を引き起こすもと。 修正案:ある物事を引き起こすもとなるもの。 理由:(2)の末尾が”もの”なので、(1)もあわせた。	左記、修正案の通り。	○
10	13	7.3の3行目、「設定しようしている」を「設定しようとしている」に変え、脱字を正す。		○
11	14	8.1の注記1の1行目、「持っている」を「もっている」に変え、他の表記に合わせる。		○
12	7.1 14-	データ 図の何が「母集団」を示すか不明確。	図の左端の円の上に「(母集団)」などを記載。	○
13	15	8.4の2行目末尾「組織活動」の後に「,」を入れる。 8.6の3行目「処置を取る」を「処置をとる」に変える。 8.6の注記2の2行目1行目に位置を合せる。		○ ○ ○
14	8.4 15-5	デザインレビュー／DR 「設計審査」も使用することがある。	8.4 デザインレビュー／DR／設計審査	× 設計審査 と デザインレビューは区別すべきだと考えます。

15	8.5	P.15 13行	原案:及び／又は 修正案:及び／又は 理由:及びのフォントは、太字から普通字の方がよい。Typo。	左記、修正案の通り。	○
16		16	9.2の1行目、3行目「予め」→「あらかじめ」に変える。4行目の%を全角の%に。 9.3の2行目「そって」を「沿って」に変える。 9.6注記1の2行目、「二つ」を「2つ」に変える。 9.8の1行目の末尾に「.」を付ける。		○ ○ × ○
17		17	10.1の1行目「ゲージ合せ」→「ゲージ合わせ」に変える。		○
18		18	10.6の1行目「評価・判定」を「評価及び判定」に変えてはどうでしょう。 10.7の1行目、「計量的に」を「計量的な」に、「の困難な検査・確認」を「が困難な検査及び確認」にそれぞれ変える。 10.10の1行目、「引き渡し」を「引渡し」に変える。		○ × ○ ○
19	10.1	18 16行	原案:要求事項を満たしていない・・・要求事項に適合する 修正案:要求事項に適合していない・・・要求事項に適合する 理由:満たしている と 適合する というそれぞれの表現は、いずれかに統一したらどうか。	左記、修正案の通り。	○
20		19	11.7の注記1の1行目、「持っている」を「もっている」に変える。		○
21		20	12.1の1行目、「ベクトルをあわせて」を「ベクトルを合わせて」に変える。 12.5に「取組み」、12.6に「取組み」という表記がありますが、これは「取組み」でそろえてはどうでしょう。		○ ○
22		21	12.8の2行目、「すりあわせ」を「すり合わせ」に変える。 12.9の注記2の2行目、「よばれる」を「呼ばれる」に変える。 13.1の注記2の1行目、「言う」を「いう」に、2行目、「直ぐ」を「すぐ」に、3行目「もどせる」を「戻せる」に変える。		○ ○ ○
23	12.1	21 15行	原案:バランストスコアカード 修正案:バランストスコアカード／バランススコアカード 理由:いずれの表現も一般的と思われるため。	左記、修正案の通り。	× オリジナルの英語に近い表現としました。
24		22	13.4の1行目、2行目、「計画どおり」を「計画通り」に変える。 13.5の見出しの後、1字空きに。 13.5の1行目、「持つ」を「もつ」に変える。 14.2注記の1行目「および」を「及び」に変える。		○ ○ × 該当箇所がありません。 ○
25	13.5	22 6行	原案:13.5点検項目 修正案:13.5 点検項目 理由:スペース追加。Typo。	左記、修正案の通り。	○
26		23	14.4の3行目、「仕組み」は他に「しくみ」という表記もあった。統一する。 14.5の1行目、「うえで」は「上で」に変える。 15.1注記2の2行目の「あり得る」は「ありうる」の表記が別にあったので、どちらかに統一。 15.5の1行目、「ならびに」は「並びに」に変える。 15.5注記2の2行目、「あり得る」は「ありうる」の表記が別にあったのでどちらかに統一。		◎ 他の個所も「しくみ」に統一する ◎ 他の個所も「上で」に統一する ◎ 他の個所も「ありうる」に統一する ◎ 他の個所も「並びに」に統一する
27		24	16.3の1行目、「顧客・社会」は「顧客及び社会」に変える。		○

28		25	16.7の2行目、「仕組み」は他に「しくみ」という表記もあった。どちらかに統一する。 16.9の2行目、3行の「持つ」は「もつ」に変える。 17.1の1行目、「うえで」は「上で」に変える。 17.1の注記1は「通常①パレート図、②特性要因図、③ヒストグラム、④グラフ／管理図、⑤チェックシート、⑥散布図、⑦層別、のことをいう。」と数字を入れる。 17.1の注記2も「通常①パレート図、②特性要因図、③ヒストグラム、④グラフ⑤チェックシート、⑥散布図、⑦管理図、を…」と数字を入れ以降の表記に合わせる。		○ △ ○ ○
29	17.2	26 -2	累積和をどうやって示すのか説明不足。	…棒グラフを出現頻度の大きさの順に並べるとともに、折れ線グラフで累積和を… （「折れ線グラフで」を追加）	× 作り方の詳細は省略している
30	17.2	26 -	パレート図について ①図の名称が無い(通常、図の名称を図の下に記載)。②左側の軸は何か分からない。件数か？ ③右側の軸の名称「累積頻度(%)」がエリア内に記載されている。 ④右側の「50」もエリア内に記載されており、「100」が無い。	①図の名称を図の下に追加。 ②左側は何か、単位と共に追記。 ③「累積頻度(%)」はエリアの外に移動。 ④「50」もエリア外に移動、「100」も追加。	× 定義の番号で図が特定できるため、それと整合しない図表番号は不要と判断しました。  ○ 別の事例を探す
31		26	17.2の図の出典、「TQMの基本」を正式タイトルの「マネジメントシステムの審査・評価に携わる人のためのTQMの基本」に変える。 17.4の1行目、「幾つ」を「いくつ」に変える。		○  ○
32	17.3	26	特性要因図について ①図の名称が無い(通常、図の名称を図の下に記載)。 ②矢印の方向が一般的ではない。 (小骨の矢印が上方向や下方向であるのは一般的ではない)	①図の名称を図の下に追加。 ②小骨の矢印を、左方向、又は、右方向の矢印に変更。	× 定義の番号で図が特定できるため、それと整合しない図表番号は不要と判断しました。  ○ 別の事例を探す
33	17.4	26	ヒストグラムについて ①図の名称が無い(通常、図の名称を図の下に記載)。 ②「標準偏差」や「工程能力指数」、規格幅などは必要か？	①図の名称を図の下に追加。 ②「標準偏差」や「工程能力指数」、規格幅などを記載するのであれば、説明文を追加すべき。	× 定義の番号で図が特定できるため、それと整合しない図表番号は不要と判断しました。  × 「標準偏差」や「工程能力指数」、規格幅などはヒストグラムに伴う情報の一部として良い
34	17.5	27	管理図について ①図の名称が無い(通常、図の名称を図の下に記載)。	①図の名称を図の下に追加。	× 定義の番号で図が特定できるため、それと整合しない図表番号は不要と判断しました。
35	—	27	QC七つ道具の下記用語が無い理由は？ ・グラフ ・チェックシート ・散布図	17.に下記QC七つ道具を追加 ・グラフ ・チェックシート ・散布図	× JISの説明と違いが無いため省略した。
36	17.7	27	新QC7つ道具 説明文が間違っている。 マトリックス・データ解析法は言語データではなく数値データを扱う。 (新QC7つ道具は全て言語データを扱う訳ではない)	…主に言語データ(7.10)を図形化・視覚化するツールの集合。(「主に」を追加) …⑤マトリックス・データ解析法(数値データを図形化・視覚化)、⑥… ( )内を追加	○  × 他の手法でも解説は付けていない
37		27	17.4の図の出典、「TQMの基本」を正式タイトルの「マネジメントシステムの審査・評価に携わる人のためのTQMの基本」に変える。 17.5注記1の1行目、「もしくは」を「若しくは」に変える。 2行目「持つ」は「もつ」に変える。 17.6の1行目、「持つ幾つか」を「もついくつか」に変える。		○ ○ × ○ ○
38		28	17.12の2行目、「三つ」を「3つ」に変える。		×

39	17.2	29-3	ボトルネック技術 「…今は実現できていない技術。」という説明は飛躍しすぎではないでしょうか？ 他をいくら向上させても状況改善が認められない場合に、このような部分をボトルネックと呼びますので、違和感があります。	製品・サービス(2.1)に対する顧客(2.2)・社会のニーズを満たすために、必要な技術のうち、最も制限をかけている技術。	△「最も制限をかけている技術。」一つとは限らないので「最も」は削除しました。
40	付録A 4.4	30-34行	原案: quality ensurance by process 修正案: quality assurance by process 理由: より一般的と思われるため	左記、修正案の通り。	× Quality Assurance は、ここで定義している品質保証よりも狭い概念として定義されているため、敢えてEnsurance を用いています。
41	付録A 1.3	30 8行	原案: quality ensurance 修正案: quality assurance 理由: より一般的と思われるため	左記、修正案の通り。	× Quality Assurance は、ここで定義している品質保証よりも狭い概念として定義されているため、敢えてEnsurance を用いています。
42		39	本文2行目、「および」を「及び」に変える。 2.1の右から2つ目の欄、「JIS Q 9000:2006」を「JIS Q 9000:2015」に変える。	改訂された新しい規格を参照する。	○ ○
43	付録C 3.4	40-8行	原案: JI 規格 修正案: JIS規格 理由: Typo.	左記、修正案の通り。	○
44	付録C 7.11	43-3行	原案: JISZ8101-2015 修正案: JIS Z 8101-2:2015 理由: Typo.	左記、修正案の通り。	○
45		43	7.11の一番右の欄、「JIS Z 8101-2015」を「JIS Z 8101-1:2015」に変える。	改訂された新しい規格を参照する。	× 44のように、-2を付ける
46		44	9.1の一番右の欄、「JIS Z 8101-2;2015」を「JIS Z 8101-2:2015」に変える(セミコロンをコロンに)。		○ 44で対応
47	付録C 9.1	44-6行	原案: JIS Z 8101-2;2015 修正案: JIS Z 8101-2:2015 理由: Typo.(コロンとセミコロン)	左記、修正案の通り。	○ 44で対応
48	付録C 10.10	45-2行	原案: 引き渡し 修正案: 引渡し 理由: 標記の統一	左記、修正案の通り。	○
49		47	13.1の左から2番目の欄、「JIS Q 9026:2015」を「JIS Q 9026:2016」に変える。	改訂された新しい規格を参照する。	○
50	付録C 13.3	47-2行	原案: JIS Q 09023:2003 修正案: JIS Q 9023:2003 理由: Typo.	左記、修正案の通り。	○
51	付録C 16.1	48-1行	原案: 自陣 修正案: 自身 理由: typo	左記、修正案の通り。	○
52		51	「[1] JIS Q 9000:2006」を「[1] JIS Q 9000:2015」に変える。 「[3] JIS Q 9005:2005」を「[1] JIS Q 9005:2014」に変える。 「[7] JIS Q 10002:2005」を「[1] JIS Q 10002:2015」に変える。 「[10] JIS Z 8002:2000」を「[10] JIS Z 8002:2006」に変える 「[11] JIS Z 8101-1:1999」を「[10] JIS Z 8101-1:2015」に変える。 「[12] JIS Z 8101-2:1999」を「[10] JIS Z 8101-2:2015」に変える。 「[13] JIS Z 8101-3:1999」を「[10] JIS Z 8101-3:2015」に変える。 [18]の書名、「TQMの基本」を「マネジメントシステムの審査・評価に携わる人のためのTQMの基本」に変える。	改訂された新しい規格を参照する。	○ 原稿に反映

53	参考文献 [1]	51- 2行	原案:JIS Q 9000:2006 修正案:JIS Q 9000:2015 理由:最新版を参照するのがよいと思われる	左記、修正案の通り。	52で対応
----	-------------	-----------	---	------------	-------